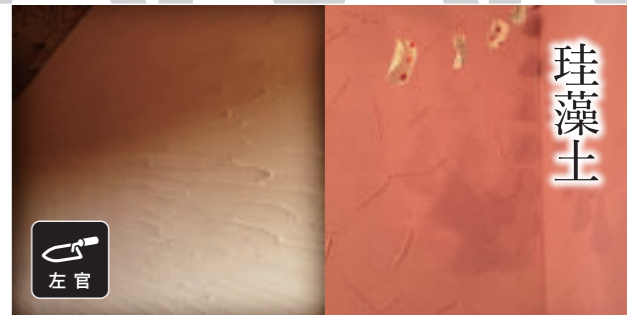
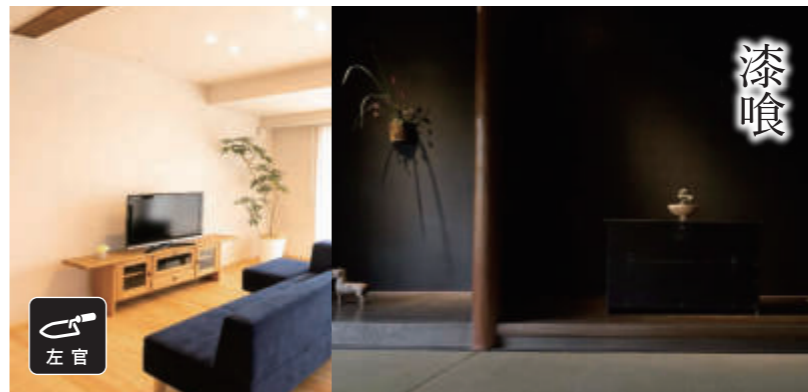


壁

技能紹介 | 天井・壁に使える匠の技

壁や天井の仕上げに既製品であるビニールクロスではなく、板張りや塗り壁といった自然素材を活かした”匠の技”を用いることで既製品にはない利点や雰囲気を生み出すことができる。



珪藻土で機能性とデザイン性を両立

珪藻土は海や湖の珪藻(プランクトン)を原料とする。保温や調湿、脱臭等の特徴から内装材として極めて魅力的な材料である。漆喰と同様に、塗り方や顔料の配合により様々な模様や色彩が表現できる。居間だけではなく脱臭効果を活かし、トイレに活用するケースもある。

アクセントの板張りでモダン空間に温かみ

上の写真のように壁面の一部に木を貼ることで、空間が引き締まるだけではなく、柔らかい印象やモダンで高級感のある空間となる。

全面板張りで木に囲まれた空間

室内に「木」を貼る場合、上の写真のように壁一面に板張りを施せば、全体が山間にある別荘を思わせるような空間となる。鳥取は木目の美しい杉材が豊富であり、温かみのある自然素材の杉材を壁や天井に用いると、柔らかな空間を作ることができる。

天井に板張りを取り入れ奥行きのある空間に

天井の一部を板張りすることで、空間にアクセントが生まれ、木の温もりを感じることが出来る。右の写真はリビングの一部を板張り天井として、落ち着いた空間を構成している。



板の模様について

木目は意匠上、大きなウェイトを占める。製材方法により板目(画像上)と柾目(画像下)に分類される。板目は木目の曲線により、ナチュラルな木の温もりを感じさせ、柾目は水平に流れる木目がモダンでスタイリッシュな雰囲気を感じさせる。

古くからある左官技法「かき落とし」

表面に凹凸模様をつけ陰影を表現できる高級感のある仕上げ。特に、白色系統の素材を用いると陰影が明瞭になる。モルタルや珪藻土、火山灰系外壁材等を厚めに塗り、ある程度硬化したタイミングでブラシ等を用いて表面をかき落とす。

キッチンカウンターをコンクリート調に見せる

樹脂を配合することでわずか2~3mmの厚さで同じ厚さのコンクリートをはるかに上回る表面強度を持ち、欠ける心配も少ない。家具やキッチンカウンターなどの天板などをコンクリートのように仕上げることの出来る製品もある。見た目に反して表面はとても滑らかな仕上がりで優しい手触り。



The 左官な仕上げ

壁表面を「土」で仕上げることも可能。土を多めに配合し、あえてひび割れを発生させたり、砂の配分を多くしてざらざらとした質感を生み出すことができる。古くは小舞や木ずりといった竹や木で組んだ下地に塗りつけていたが、最近ではビニールクロスの上からでも施工可能な製品も登場している。



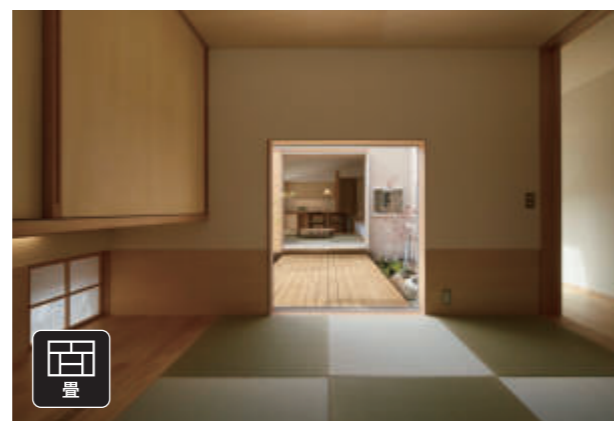
現代の暮らしにちょうどいい

リビングの一角に小上がりや畳スペースとして畳を活用すれば、手軽に「和」の雰囲気が感じられる。子どもの昼寝や家族のコミュニケーション、食事などのスペースにも最適。



今、見直される日本が誇る万能床材

思わず転がりたくなるのは、畳が程よい硬さとクッション性を持っているから。ホッと落ち着ける空間として畳は重宝する。ちょっとしたスペースにも対応できる半畳のふち無し畳もあり、すっきりとした空間とすることができる。



現代的な定番の和室の“しつらい”

色を変えて敷くことで、「和」の雰囲気を感ぜさせつつ、モダンな仕上がりとすることもできる。

床

技能紹介 | 床に使える匠の技

床にも畳や板張りといった“匠の技”を活用することで、優しい肌触りや温かみを感じられる。玄関等では左官の手仕事による土間や洗い出しで、オリジナリティのある空間づくりができる。



木の温かみを活用した空間デザイン

色の濃い木材を床に使用すると、空間全体が重厚で高級感のある雰囲気となり、明度の高い木を床に貼ると、爽やかな雰囲気になる。また、節は敬遠されることもあるが、生きた(抜け落ちたりしない)節であれば問題なく使用することができ、むしろ木目に節があることで生み出されるナチュラルな雰囲気が好まれることもある。

無垢フローリングの魅力

床は家の中で最も触れる頻度が高い場所。吸湿性や断熱性がある杉や桧を床の仕上げに用いることで、裸足で歩いても気持ちがよく、夏はさらっとした肌触りで、冬は冷たさを感じにくくなる。



杉は柔らかく肌触りがやさしい。鳥取県産材も豊富でコストパフォーマンスも高い。



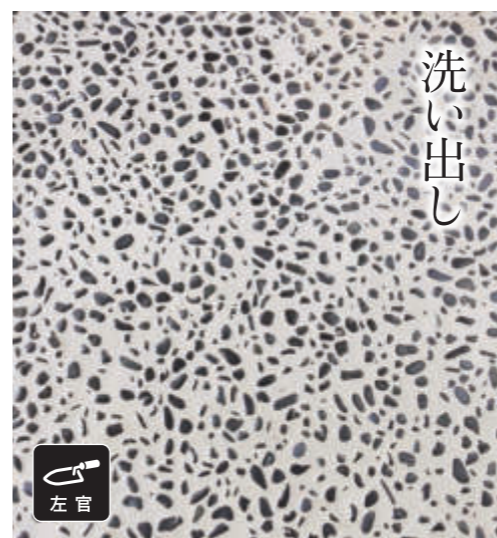
桧は木目が密で上質感がある。強度が高く、水にも強いので耐久性がある。



ナラ(オーク)は力強い木目が美しい木材。硬く耐久性に優れている。



パインは比較的硬く、油分が多く含まれているため経年で自然な艶が出る。



高級感を演出する洗い出し

その名の通り、モルタルが硬化する直前に表面を洗い出し、小石などの骨材を見せる仕上げ。左官職人の匠の技なしでは成り立たない高級感のある仕上げ。

屋外作業や収納に重宝する土間空間

土間は元来、土を締め固めていたが、現代の住宅ではモルタル等による土間が一般的。土間スペースは居間などではできない作業ができるうえ、自転車を収納するなど半屋外スペースとして便利に活用できる。



建具



建具

優れた機能を持った日本ならではの建具

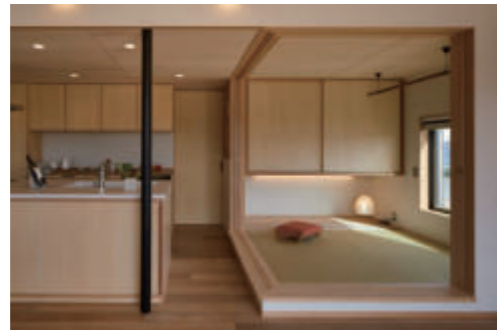
障子は木材で格子を組み、主に和紙を原料とした障子紙を貼った建具。空間を仕切り、視線を遮ることが出来るだけでなく、障子を通すことで室内に光を優しく取り入れることが出来る優れた機能を持つ。現代の住宅にも取り入れやすく、格子を大きくすることでモダンなデザインとなり、和室だけではなく、リビングやダイニングなどにも取り入れることが出来る。

技能紹介 | 建具に使える匠の技

住宅に用いるドアや戸にはメーカーのカタログで選ぶ既製品のフラッシュ戸などの他にも木の特性を知り尽くした建具職人の製作する木製建具がある。オーダーメイドにより、その空間に調和する建具が作成できる。



建具

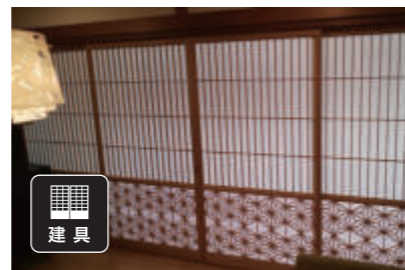
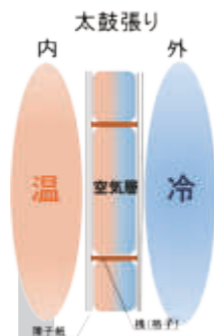


モダンなデザインの住宅にも取り入れやすい

リビングの一角に畳コーナーを設け、間仕切りとして障子を採用した事例。大きめの格子で白を基調とした仕上げとすれば洋風なリビングにも調和する。襖同様に取り外すことで空間を広げる使い方も出来る。

断熱性の高い太鼓張り

障子には太鼓張りといった技法もある。太鼓張りは組子の両面に障子紙を貼ったもので、障子紙の間に空気層が出来ることにより、断熱性能が高くなる。また、棧(格子)の部分にホコリが溜まらないので掃除が手軽になるメリットもある。



建具

和の心を感じる組子の技法

組子細工を取り入れた障子。格子を細くすることで和室によく馴染む仕上げになる。また、細い格子は洗練された和の雰囲気が醸し出せる。



太鼓張り

建具



板戸(引き戸)

建具

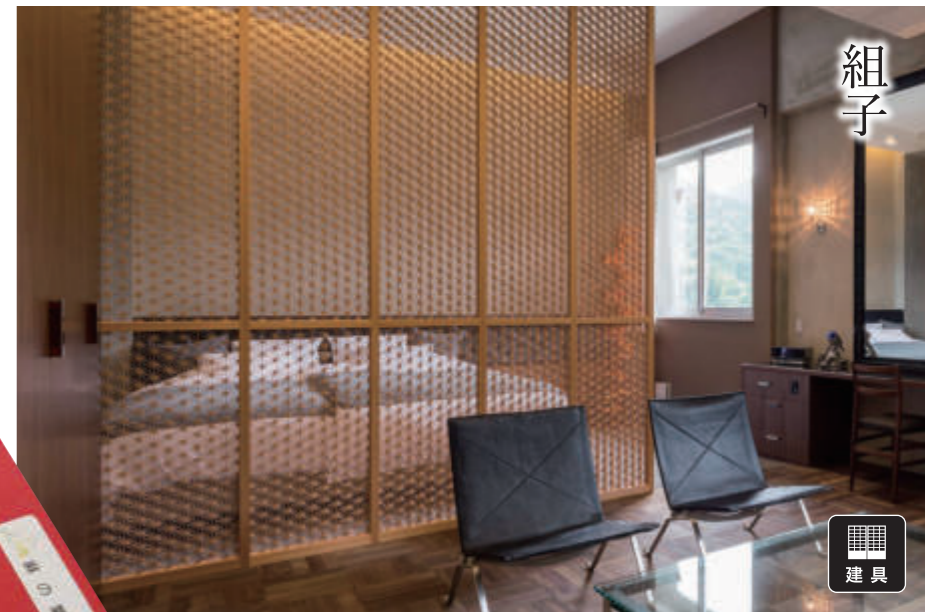
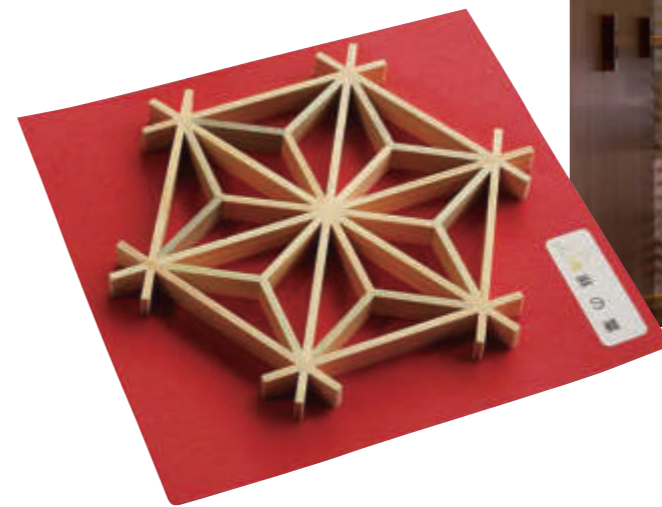
TATEGU

木本来の美しさを感じられる木製建具

板戸はフラッシュ戸や雨戸など面材に木板を用いた建具であり、日本最古の建具も飛鳥時代の板戸であった。和室だけでなく、シンプルモダンなデザインで洋室に取り入れることも出来る。また、オーダーメイドで開口部の大きさに合わせた建具が製作できるため、リフォームにも活用できる。

建具技能における最高峰

組子細工は小さな木片を緻密な作業で幾何学模様を組み合わせる、建具職人の技術の結晶である。アンティークな雰囲気もありつつモダンな空間にも取り入れることが出来る。また、組子の魅力を手軽に取り入れることのできるコースターや鍋敷き等の製品も販売されている。



組子

建具

自由なデザインが可能な襖

襖は木を格子状に組み、その上に和紙を貼り合わせて作る日本特有の建具。出入口に用いるだけでなく、可動する間仕切りとして用い、取り外すことで部屋の広さを変えることも出来る。和紙のデザインを変えることによって純和風以外にも現代風のシックで落ち着いた空間にできる。



襖

建具



玄関戸(縦格子)引き戸

建具

和の住宅に欠かせない木製玄関戸

縦格子を組み、ガラスをはめ込んだ玄関の引き戸。縦格子は和の雰囲気が醸し出され、和風な住宅に調和する。はめ込んだガラスからの採光によってエントランス空間が明るくやわらかな雰囲気になる。